
おねがい*パートナー

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おねがい*パートナー

【Nコード】

N 8 6 9 4 A

【作者名】

ハルメク

【あらすじ】

シノノメ・アンナと東雲叉彦の出会い。2人は風見みずほとその周りの世界を宇宙海賊ザイオンから守るために木崎高等学校の生徒として転入する。明かされる秘密とザイオンの攻撃。そして最後には・・・。

part・0 はじまりのはじめ・(前書き)

『おねがい*ティーチャー』、『おねがい*ツインズ』の二次創作です。

part・0 はじまりのはじめ・

理想の世界というのはどういふものだろう、東雲又彦は思った。

たとえば何もかもが手に入る世界。異性でも、金でも。
しかし又彦にとってはそんなものは何の価値も無かった。

「帰りたい」

又彦は漠然とそう思った。一戸建ての自宅の自分の部屋で。高校
三年生の夏休みが終わりかけている8月後半の薄暗い部屋で。

又彦は最近、家に帰り着いてもまだどこかへ帰りたいという欲求
に近いものを感じるようになった。どこへ帰りたいのか自分でも解
らない。

- - - - -

地球から遠く離れた宇宙。

【銀河連盟：辺境惑星監査室】

「・・・お呼びでしょうか、室長」

腰まである長い黒髪の女の子だった。大きな眼は鋭い形をしている。顔も細く、大人びているが十代の幼さが感じられる容姿をしている。全銀河系の位置を把握しそれを記号で現しているナビゲーションシステムが女の子の前に浮かび上がった。

「そのの、青いデルタが見えるかい？」

金属でできているらしい肘掛け椅子に座った白髪の壮年男性が言った。顔の掘りが深く、その奥にある双眸は優しく前の女の子を見ていた。

「はい・・・これは確か『地球』では。風見監査員が赴任している惑星です」

「そう、『地球』だ。文化レベルがまだ未発達の惑星だよ。現在、風見みずほ監査員が1人の地球人と契りを交わし共に生活している」

女の子は頷く。

「それは承知しています。何か問題が起こったのですか？ 私を呼ばれたということはそういうことだと思われませんが」

室長は重々しく頷いた。眉間には白い眉が寄っている。

「ザイオンが反旗を翻した」

「……っ！」

女の子の顔が強ばった。冷然とした雰囲気は霧散していた。

「そんな、同意して銀河連盟に帰属した筈……」

「いや、奴らは銀河連盟の技術力に目をつけたのだよ。奴らに生体コンピュータや空間転移システムの開発技術を盗まれた。だが、最後のあれだけは盗まれなかったのは幸いだ」

「あれ、ですか……」

「そう、あれだ。しかし問題はここからだ。ザイオンはあれを手に入れるために人質を取ろうと地球に向かっている」

女の子の顔は険しくなった。

「風見監査員を……」

「奴らは風見初穂しゃんの娘だと知っているんだよ！！ 銀河連盟議長が初穂しゃんにメロメロだと言うことも！！ 何処からそんな情報を得たのだから！ くう、初穂しゃんにこの事は知らせていないがもし知ったらどんなに悲しまれるか！」

室長は顔の掘りを深くし、拳を握りしめた。

「……………」。なぜ風見初穂さんを誘拐しなかったのでしょうか

「それはザイオンの動きを察知した議長が風見初穂しゃんと風見まほちゃんの2人を安全な場所、つまり議長宅に避難させたからだ。

ザイオンのことは言わないで『お泊まり会』と称して招いたらしい。だから手を出せなかったのだよ。それに銀河連盟本拠地で騒動は起こせなかったのだらう」

「・・・なるほど。そして私に風見みずほ監査員の護衛をしろと」

室長は腕を組みをし中空を眺める。

「そう、だ。しかし風見監査員にそのことを悟られてはならない。風見監査員に悟られればひいては、地球人にも知られることになりかねない。風見監査員には引き続き地球を監視してもらいたいのだよ。」

所で、君は『異空間生命体』に関する論文を読んだことはあるかな？」

「はい・・・。」

確か宇宙開闢と共に多岐にわたる空間の広がりが出来、そこには私たちの宇宙と同じような空間が創り出された。

そして私たちと同じような生物も存在している。銀河連盟はその異空間に到達することに成功し、1人の人間を連れて帰投した。その人間は元の空間に存在していた時よりも遥かに強力なパワーを保持し、戦闘能力は銀河連盟の全軍勢力の三分の一に匹敵したとか。そしてその人間を中心にして銀河連盟：銀河系保安室が創られた」

「そうだ。その人間は多大なる協力を銀河連盟にし、そして任務中

に事故に遭い死亡した・・・。

君が生まれる前のことだが・・・」

室長は顔に陰を落とした。そしてこう続ける。

「君には異空間生命体と協力し風見みずほ監査員の護衛とザイオン撲滅の任務に就いてもらう。銀河系保安室長の許可も貰ってある。異存はないね？」

「はい。ありません」

事務的に女の子が答える。感情を排除した声である。

「ジャンプシステム稼働まで2時間ある。それまで休みなさい」
柔らかな包容力のある言葉を室長は女の子に投げかけた。

「はい。失礼します」

女の子は背を向けて辺境惑星監査室を出た。半透明の自動シャッターが機会音を出して閉じた。

室長は椅子に座り半透明のシャッター越しに女の子の後ろ姿を見ていた。自分の娘の旅立ちを見送る父親のように哀しみを反映させた表情で。

「お前は父親失格だよ、シノノメ」

室長は他の監査員に聞かれないように小さくそう言った。

(part・1 に続く)

part・0 はじまりのはじめ・(後書き)

アニメ化希望です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8694a/>

おねがい*パートナー

2010年10月21日23時55分発行